

# 第68回鹿県高校美術展

17日まで鹿児島市立美術館



鹿児島県高校美術展大賞に輝いた松陽3年、福本薫子さんの彫刻「素的」

第68回鹿児島県高校美術展が鹿児島市立美術館で開かれている。最高賞の高校美術展大賞に輝いた松陽3年、福本薫子さんの彫刻作品と、鹿屋女子高校の大川由香里教諭の審査講評を紹介する。同展は17日まで。入場無料。

講評・大川由香里さん

自己表現は同時に他者とのコミュニケーションである。テーマがより良く伝わるよう構成を熟考したり、思いが強く届くよう大きく

大賞・福本薫子さん(松陽3年)

## 人間の素朴な美濃縮

作品とは日々の生活で感じたことや自らに内在したエネルギーを、唯一無二の

間であり、作り手の生徒の皆さん一人一人に敬意を表したい。

身体を通して表出したものであり、審査はそのエネルギーに正面から向き合う作業である。今回は県内54校

全体として、テーマやコンセプトを重視した作品が多く、描写力は平均的に高かった。半面、小規模な作品が目立った。高校美術展大賞には松陽3年福本薫子さんの彫刻「素的」が

慎重な審査を経て、洋画・日本画・水彩画・彫刻・立体造形・デザイン・工芸など9部門にわたって、計445点が展示されることとなった。

余計なものを削ぎ落とし、た中に、人間の素朴な美しさが濃縮されている。本展を象徴する秀作となっている。

若い、膨大なエネルギーとの真剣勝負は、正直恐ろしく疲労する。しかし、それだけエキサイティングな時

ある。

表現してみるなど、現時点の自分の範疇(はんちゆう)をもう一歩踏み出せば、より輝きを増すであろう作品が多くあった。皆さんの今後に期待したい。

画面をタッチするだけで素敵(すてき)なものを作り出せ、世界に発信できる現代、若者たちが身体を酷使して材料と格闘し、1点モノの表現を生み出す行為はそれだけで特別で美しい。ぜひ会場に足を運んでいただき、おのおの身体で、彼らのエネルギーを受け止めていただければ幸いだ。